

日本芝に問題はありませんか？

日本芝の生育不良（しずみ症状）の原因

土壌環境による生育不良

土壌がサンド化すると、芝の生育環境を悪化させる以下の要因を誘発します。「保肥力(CEC)の低下」、「有機質の減少」、「pHの上昇」、「保水力の低下」による乾燥」と、芝の生育環境が悪化します。その結果、芝の病害虫に対する抵抗力が低下し、生育不良を起こすことがあります。

サンド化の
進行

- ・土壌の保肥力(CEC)の低下
- ・有機質(腐食)の減少
- ・pHの上昇
- ・保水力の低下による乾燥
- ・病害虫による抵抗力・回復力低下
- ・除草剤によるランナー・根系部への影響力増大

芝の
生育不良

虫害による生育不良



コガネムシ幼虫



シバオサゾウムシ幼虫



シバツトガ幼虫



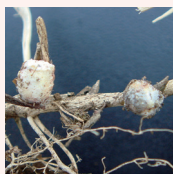
スジキリヨトウ幼虫

カイガラムシによる被害とゾイシアデクライン等の病害の見間違いに注意！

「病害？虫害？」

チガヤシロオカイガラムシ

一見、病害のように見えてもその原因が虫であることも少なくありません。特に、チガヤシロオカイガラムシによる被害はゾイシアデクラインなどの症状とよく似ているため見分けが付きにくく、病害だと思っていた芝からチガヤシロオカイガラムシが見つかったこともあります。他にもシバオサゾウムシ、コガネムシ、スジキリヨトウなども同じような被害を起こすことがありますので注意が必要です。



根茎に寄生した
チガヤシロオカイガラムシ



チガヤシロオカイガラムシ
による被害

病害による生育不良



葉腐病(ラージパッチ)

リゾクトニア菌による病害。冷夏、多雨、長雨、暖かい早春や晩秋など気温と降雨が最大の環境要因となる。芝の地際部葉鞘に感染すると黄化・褐変し、引き抜きやすくなる。



疑似葉腐病(春はげ症)

秋に目土の多用、窒素肥料過多や乾燥気味のところに発生しやすい。通称“2核のリゾクトニア”と呼ばれるセラトバシディウム菌による病害。



ゾイシアデクライン(日本芝立枯病)
※外着生根部感染菌(ETRI菌)

ラフに発生。ラージパッチに似ているが病原菌は異なる。外着生根部感染菌の一種でゴウマノマイセス菌による病害。



ネクロティックリングスポット病
※外着生根部感染菌(ETRI菌)

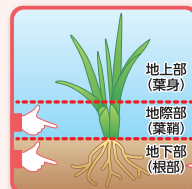
枯死パッチから裸地化する。このパッチからはゾイシアデクラインの菌も検出された。外着生根部感染菌の一種でレプトスフェリア菌による病害。

外着生根部感染菌(ETRI菌)をご存知ですか？

「秋に予防散布したのに春にパッチが発生した」、
「春のしずみ症がおならない」という経験はありませんか？

「外着生根部感染菌」は主に根に寄生して病害を引き起こす病原菌を指します。各病原菌は、若い根では外着し、古い根になると水分や養分の移動路である維管束にまで侵入して組織を破壊します。水分、養分の移動が妨げられた芝は乾燥に弱く、生育不良となり、春には典型的なしずみ症状を示します。

「外着生根部感染菌」による病害は、ゾイシアデクライン(日本芝立枯病)、スプリングデッドスポット、ネクロティックリングスポット病などがあげられます。



外着生根部感染菌は
こんなところに潜んでいる

日本芝の
生育不良
対策に！

病害に



クルセイダー®

フロアブル

ラージパッチ・春はげ症をはじめ、難防除病害であるゾイシアデクラインを含む幅広い病害防除効果で散布面積の大きいフェアウェイ・ラフで一発防除が可能。

虫害に



タフバリア®

フロアブル

コガネムシ類幼虫、シバオサゾウムシ、ケラに、少ない有効成分量で長期間防除が可能。しずみ症状を引き起こすチガヤシロオカイガラムシに対しても高い殺虫効果がある。

日本芝の生育不良の対策

病害や虫害、土壌のサンド化などによる生育不良の対策として、
【有機質堆肥の施用】【更新作業の実施(エアレーション等)】【土目土の実施】
【浸透剤の利用】【定期的な散水】【施肥量、回数を増やす】などの耕種的な方法の他に、
【殺菌・殺虫剤の予防散布】【異なる除草剤のローテーション散布】などの化学的な方法があります。

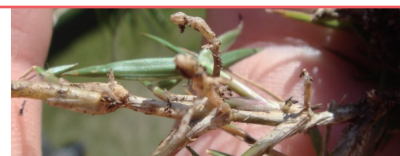
病害や虫害が原因となっている場合は、総合防除力のあるクルセイダーのような殺菌剤や残効性の長いタフバリアなどの殺虫剤の定期的な散布も必要です。散布は、根の部分まで薬剤を到達させるように、水量を多くし、浸透剤を加用するなどの方法が効率的です。

防除のポイント

- 冬期の芝生の乾燥に注意する
- 病原菌に有効な殺菌剤DMI剤(EBI剤)を予防的に散布する
- 有機質を含んだ目土を散布する
- 殺菌剤を根茎箇所に到達させるように散布水量を多くする(0.5l/m²以上)
- 秋から冬にかけての貯蔵養分を蓄えさせる施肥をする
- 完全回復に時間を要するので2~3年の継続散布を行う

その他の生育不良の原因

除草剤の影響によるタコ根
除草剤の誤った使用によっても生育不良が起こる。



日本芝の生育不良を改善するために

クルセイダー®
フロアブル

春
総合防除

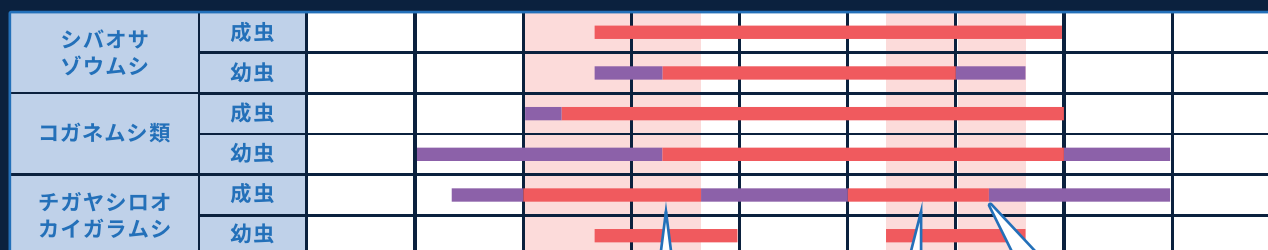
秋
1回目 除草剤と同時に散布またはラージパッチ対策
2回目 総合防除

クルセイダーは、有効成分にテブコナゾールを持つエルゴステロール生合成阻害剤(DMI剤)です。幅広い殺菌スペクトラムだけでなく、既に内部に侵入している菌に対して治療効果を発揮するので、病害の予防と治療効果による進展阻止の2つの効果が期待できる殺菌剤です。

病害



虫害



頻出時期 発生時期 総合防除の散布適期

タフバリア®
フロアブル

長い残効性で芝草害虫を同時防除

タフバリアは長期残効性タイプの薬剤なので、発生時期がバラバラな各芝草害虫にも一度の散布で防除が可能です。

カイガラムシの防除

カイガラムシの成虫はロウ状の物質で表面が覆われていて薬剤が効きにくいので、仔虫(ふ化幼虫)の発生時期が防除適期です。